活動事例発表

県老連、高齢者の集いにおける取り組み事例発表

呉川寿康会　太田雅弘　会長

相生市高年クラブ連合会　小松景子　会長

県老連では、昨年度から、高齢者の集いにおいて、県下各地の老人クラブのうち、会員増強や休会クラブ対策などに関する精力的な取り組み事例の発表を行っています。

1件目は、芦屋市の呉川寿康会の太田会長から、先代会長の急逝により、急遽、会長代行となられてから、「会員数の減少や組織・活動の縮退」という状況の中で、『特別なことではない』取り組み方策についてご報告をいただきました。

2件目は、相生市高年クラブの小松会長から、「解散予定の老人クラブの再生と新たな老人クラブ創設への取り組み」として、同会長のエネルギッシュな取り組み事例をご報告いただきました。

兵庫県からのコメント

老人クラブ活動を通して、人と人が繋がっていくことが大切！
熱い思いをもって、会員増・クラブ数増に取り組む姿に期待！

この2件の活動事例発表に対し、出席された生安福祉部長様から、次のコメントを頂戴しました。

1　呉川寿康会の取り組みについて

老人クラブへの加入に向けて、声かけ運動を積極的に実施されている。

一般的にみれば、何も特別なことではないようにみえるが、非常に重要なことと考えている。

老人クラブの未加入の理由は声をかけられたことがないというのが一番の理由と伺っており、地道な勧誘活動が成果を挙げているといえる。

これに繋がるのが広報活動であり、目に見える形で知っていただくことが大切。

こまめに繰り返し広報紙を発行することが重要であり、市町の広報紙との連携も必要と考える。

2　相生市高連の取り組みについて

小松会長のリーダーシップの下、すごく努力されていると感じる。

老人クラブは、本来、顔の見える距離に住まう者が組織するのが原則だが、例外的に、広く地域の個人会員を集約されていったと思われる。

従来の固い考え方ではなく、熱い思いを持って工夫され、新しい老人クラブのあり方を模索され、組織を柔軟に再構築・創りあげていく事例として感銘を受けた。